野性の少年（1969）

L’ENFANT SAUVAGE
THE WILD CHILD

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 86分
初公開日 1970/12/19
公開情報 ＵＡ
映倫 G

【解説】

Ｎ・アルメンドロスと言えば、印象派絵画を想わす色彩豊かな撮影で知られるが、この作品での白黒の画面も限りなく自然で、“アヴァロンの野生児”と呼ばれた、実在の野性育ちの少年が文明社会に“回帰”していく葛藤の様を、優しく厳かに捉えて、全く素晴らしい。時にそれはシャープにして、戦前フランス映画の各品に通ずる軟らかさを持って自在、トリュフォーとの共同作業の中でも最良の成果を挙げた。フランス中部の森で発見された、その少年はパリの聾唖研究所に送られ、白痴との診断を受けるが、監督トリュフォー自ら演じるイタール博士はこれに反対。自宅に引き取って、彼をヴィクトルと名付け、徹底して不足しているその文化を補う教育を施そうと必死になる。徐々に人間の知覚と感情を身につけ始めた少年がある日突然逃げ出した。しかし、森の中での振舞い方を既に忘れた少年は最早、獣には戻れず、すごすごとイタールのもとへ戻るのだった……。スピルバーグが本作のトリュフォーを念頭に置いて、自作「未知との遭遇」のラコーム博士役を創造、彼に出演を請うたのは有名な話。それほどに秀れた“コミュニケーションとしての教育”を描いた稀なる傑作。少年のＪ＝Ｐ・カルゴル、博士の家政婦のゲラン夫人を演じるＦ・セーニエ（コメディ・フランセーズのヴェテラン）共に印象的な銀幕デビューとなった。

【クレジット】

監督	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut	
製作	マルセル・ベルベール	Marcel Berbert	
脚本	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut	
	ジャン・グリュオー	Jean Gruault	
撮影	ネストール・アルメンドロス	Nestor Almendros	
編集	アニエス・ギユモ	Agnes Guillemot	
音楽	アントワーヌ・デュアメル	Antoine Duhamel	
出演	ジャン＝ピエール・カルゴル	Jean-Pierre Cargol	ヴィクトール
	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut	ジャン・イタール
	ジャン・ダステ	Jean Daste	フィリップ・ピネル
	フランソワーズ・セーニエ	Françoise Seigner	ゲラン夫人
	ポール・ヴィレ	Paul Villé	レミー

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.